

【事例 14】

～他地域の農業生産法人の参入による耕作放棄地の解消～

【愛知県・知多市】

(1) 経緯

- 愛知県知多市鎌が谷地区は、フキ等が盛んに生産されている地区であるが、高齢化による労働力不足等により、耕作放棄地が発生している。
- (株)扶桑農産(本部扶桑町)は愛知県内で水田、畑作を営む農業生産法人である。知多市においても既に耕作をしている実績があり、市内にも事務所を構えている。畑作では主に業務用の野菜を生産しており、規模拡大により安く農産物を提供する経営方針である。
- 経営規模を大きくすることにより、急な注文にも対応できる体制を整えることを目指していたところ、耕作放棄地解消対策を模索していた市と考えが一致したことから、市が当該耕作放棄地を紹介したものである。

(2) 取り組みの状況

- 耕作放棄解消前は、セイタカアワダチソウやクズが繁茂している状況であった。
- 地域協議会が同農業生産法人に耕作放棄地再生利用緊急対策を紹介したことから、事業を活用することとなった。
- 同農業生産法人は、同事業を活用して2筆、合わせて53aの耕作放棄地を解消。
- 同法人が従来から営農している他市町村と土質が異なるため作業性に違いがあり、黄タマネギの作付けに向けて試行錯誤している。
- 湧水があり、水はけに問題があるとみられるため、明渠を掘っている。



再生前



再生後

(3) 今後の予定

- 知多市内での耕作は10ha程度を目安。
- 当該農地には加工用(カット加工)の黄タマネギの作付けを予定。